

グローバル化と国際社会B		教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目	科目ナンバリング	23100103

1. 授業のねらい・概要

より理論的な視点から、「グローバル化」と国際社会の課題を中心的な内容とする。国際金融、国際貿易、国際協定、環境の実態にできるだけ多くのデータを用いて解説する。「グローバル化と国際社会 A」が歴史と今日の問題を取り上げるのに対し、本講座では経済学的な理論を取り上げる。

2. 授業の進め方

板書を中心に、資料、論文、経済専門紙の記事等について OA 機材を用いながら受講者とともに丹念に読み進める形式で進めていく。国際社会を理解するうえで必要な経済理論、論文については適宜取り上げる。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 中国経済の動向
2. グローバル化に求められる基礎理論	10. 自由貿易体制の動き
3. 国際貿易の基礎理論①（比較生産費説）	11. 直接投資と生産性
4. 国際貿易の基礎理論②（ヘクシャー・オリーンの理論）	12. 国際社会の問題①通貨危機
5. 貿易政策の経済理論（輸入関税、輸入数量制限）	13. 国際社会の問題②リーマンショック
6. 米国の金融政策と国際経済（FRBの政策と影響）	14. 国際社会の問題③英国の欧州連合(EU)からの離脱
7. 為替の理論と通貨問題(通貨危機と金融政策)	15. 総括と期末試験について
8. 欧州経済の動向	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日々、国際社会のニュース、記事に目を通しておくことが予習になる。毎日、1時間程度は必要であろう。必要であれば、スクラップも勧める。復習には、経済産業省の『通商白書』等も有効であろう。こうした復習には、1時間以上は必要であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期中に自らの問題意識に基づいた1〜2本程度のレポートの提出を求める。講評をつけて返却する。また、本人の許可があれば、授業で受講者にその概略等を紹介することもある。

6. 授業における学修の到達目標

「グローバル化と国際社会」について理論的、多面的に考察できる力の修得を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出（10%）、レポート（20%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、特に限定しない。参考文献は、栗原裕（2018）『グローバル経済』（晃洋書房、1800円＋税）、藤田昌久・若杉隆平[編著]（2011）『グローバル化と国際経済戦略』（日本評論社、4600円＋税）、秋葉弘哉[編著]（2010）『国際経済学』（ミネルヴァ書房、3800円＋税）。経済産業省（2018）『通商白書』。

9. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A」については受講済みであることが望ましい。もとより「EU 経済論」、「米国経済論」を学ぶ上での基礎科目でもある。日々、経済専門紙を読んでおくことが望ましい。